「世界の持続可能な航空燃料（SAF）市場2022年－2050年：燃料タイプ別（バイオ燃料、パワーツーリキッド、ガスツーリキッド）、技術別」調査レポート（市場規模・動向・予測）を取り扱い開始しました

2022年11月25日
株式会社マーケットリサーチセンター

株式会社マーケットリサーチセンター（本社：東京都港区、世界の市場調査資料販売）では、「世界の持続可能な航空燃料（SAF）市場2022年－2050年：燃料タイプ別（バイオ燃料、パワーツーリキッド、ガスツーリキッド）、技術別（HEFA-SPK、FT-SPK、HFS-SIP、ATJ-SPK、パワーツーリキッド）」調査資料の販売を2022年11月25日
に開始いたしました持続可能な航空燃料（SAF）市場規模、動向、予測、関連企業の情報などが盛り込まれています。

■レポートの種類：グローバル市場調査レポート
■レポートのタイトル：世界の持続可能な航空燃料（SAF）市場2022年－2050年：燃料タイプ別（バイオ燃料、パワーツーリキッド、ガスツーリキッド）、技術別（HEFA-SPK、FT-SPK、HFS-SIP、ATJ-SPK、パワーツーリキッド）
■英文タイトル：Sustainable Aviation Fuel Market （Fuel Type: Biofuel, Power-to-Liquid, and Gas-to-Liquid; and Technology: HEFA-SPK, FT-SPK, HFS-SIP, ATJ-SPK, and Power-to-Liquid） - Global Industry Analysis, Size, Share, Growth, Trends, and Forecast, 2022-2050
■発刊日：2022年11月16日
■出版社：Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）
■レポート形態：PDF（Eメールによる納品）

■主な掲載内容

持続可能な航空燃料（SAF）は、持続可能性の基準を満たした再生可能な燃料または廃棄物由来の燃料です。この燃料は、林業や農業の廃棄物、食用油、大気中の炭素、グリーン水素など、さまざまな持続可能な資源から製造することができ、また、化石燃料のジェット燃料に混ぜて使用することで、排出ガスを削減することができます。持続可能な航空燃料は、航空機やインフラに変更を加えることなく追加することができるため、ドロップイン燃料と呼ばれます。高品質な持続可能な航空燃料は、二酸化炭素排出量の削減に重要な役割を果たします。持続可能な航空燃料の生産、流通、輸送、燃焼時の排出量は、化石燃料のジェット燃料と比較して約75％少ない。石油・ガス精製工場がSAF技術を統合する可能性は多岐にわたります。再生可能な航空燃料の採用は、有害な粒子状物質の排出を90％、硫黄の排出を100％削減するのに役立ちます。

気候変動は、世界的に重要な課題の一つです。この問題に対処するためには、政府、社会、産業界が一体となった取り組みが必要です。航空業界は、セメント、鉄鋼、プラスチック、トラック輸送、海運と並んで、世界の年間炭素排出量の約30%を占める6つの難解なセクターのひとつです。航空部門における炭素排出量の増加は、航空旅行者の増加に起因しています。現在の予測では、2050年には航空機による個人旅行者の需要は100億人を超えるとされています。航空部門は、世界的に旅行制限が解除されつつあるため、COVID-
19以前の、世界の温室効果ガス総排出量の約3％を占めるまでに回復すると思われます。ビジネス・アズ・ユージャル」軌道での予想される炭素排出量は、2021年から2050年の間に約21.2ギガトンCO2となります。
世界各国の政府は、CO2排出量を削減するために、持続可能な燃料や炭素回収技術の採用を進めています。SAFの利用が急増することで、航空業界におけるCO2排出量の削減が期待されます。SAFは、2050年までに航空業界がネットゼロを達成するために必要な排出量の約65％削減に貢献する可能性があります。持続可能なジェット燃料の利用は、政策的支援が世界的に広がり、SAFが化石ケロシンに対して競争力を持つようになることから、2030年代には増加すると予想されます。

航空業界の企業は、2050年までにCO2の純排出量を削減することを約束しています。2021年10月、IATA加盟航空会社は、2050年までに炭素排出量を正味でゼロにすることを約束しました。米国ボストンで開催された第77回IATA年次総会で可決されたこの決議は、地球温暖化を1.5℃に抑えるというパリ協定の目標に航空輸送を一致させるものです。世界のいくつかの国では、2050年までにネットゼロエミッションを達成するために、さまざまなエネルギー規制を実施しています。しかし、航空分野ではすぐに利用できるソリューションがないため、この分野は「削減が難しい」カテゴリーに分類されます。このようなシナリオでは、SAFの採用が、航空業界の2050年目標を達成し、それを超えるための唯一最大のチャンスとなります。航空セクターは、これらの目標を達成するために、2050年までに年間約4億5000万～5億トンの再生可能なジェット燃料を必要とすると推定されます。
持続可能な代替エネルギー源がすでにある他の輸送部門ではなく、航空部門に原料を振り向けるための政府の強力な支援は、グリーン航空燃料の使用を今後数年間で拡大する上でのさまざまな課題の克服に役立つと考えられます。2020年には、ジェット燃料が1リットル当たり0.5米ドルであるのに対し、SAFの総コストは1リットル当たり1.1米ドルでしたが、しかし、従来のジェット燃料の一般的な価格は今後数年間で上昇すると予想され、一方、持続可能な航空燃料（SAF）の価格は低下すると予想されます。市場のベンダーは、単一の選択肢に依存するのではなく、さまざまな原料の研究開発に投資する可能性があります。これには、非食用作物、廃棄物、リサイクルまたは直接回収されたCO2から得られる電力から液体への燃料などが含まれます。

燃料の種類によって、世界の持続可能な航空燃料（SAF）市場は、バイオ燃料、電力液化燃料、ガス液化燃料に分類されます。バイオ燃料セグメントは、2021年の世界市場の95.7%の主要シェアを占めています。同セグメントは予測期間中、その優位性を維持すると推定されます。バイオ燃料は、植物原料や動物の排泄物などの有機物-バイオマス-

から直接または間接的に生産されます。バイオ燃料の生産に使用される原材料の大半は、薪、炭、動物の糞などの伝統的な天然バイオマスが占めており、また、従来の食用作物や特殊なエネルギー作物などの作物から得られる場合もあります。また、バイオ燃料は、林業、農業、漁業の生産物や都市廃棄物からも得ることができます。これらの燃料は、石油ベースのジェット燃料と同等の性能を発揮する可能性があるが、二酸化炭素排出量はわずかである。

市場は技術別に、HEFA-SPK、FT-SPK、HFS-SIP、ATJ-SPK、パワー・トゥ・リキッドに分類されます。2021年の世界シェアは、HEFA-SPK分野が95.3%で圧倒的なシェアを誇っています。HEFA-SPK経路は、植物油や廃油などの脂肪質の原料を使用し、まず酸素添加反応を行い、次に水素を添加して脂肪化合物を炭化水素に分解します。これらの脂肪化合物はさらに精製され、最大50%まで混合可能な各種液体燃料となります。

2021年の世界市場のうち、欧州が56.2%と突出したシェアを占めている。同地域の市場は、予測期間中に大きなペースで成長すると考えられます。厳しいエネルギー規制の実施の急増が、欧州の航空セクターにおける持続可能な燃料の採用を後押ししています。
北米とアジア太平洋地域は、持続可能な航空燃料（SAF）産業において注目すべき地域です。これらの地域は、2021年に世界市場のそれぞれ41.3%と1.9%のシェアを占めました。米国の航空セクターの企業は、連邦政府やその他のステークホルダーと協力し、持続可能な航空燃料（SAF）の生産と配備を後押ししています。2021年9月
、米国政府は2030年までに少なくとも年間30億ガロンのSAFを供給する挑戦を開始しました。
中東・アフリカと中南米は、他の地域の市場に比べ、持続可能な航空燃料（SAF）の比較的マイナーな市場です。

■レポートの詳細内容はこちら
https://www.marketresearch.co.jp/data1/sustainable-aviation-fuel-market-fuel-type-biofuel-power-to-liquid/

■レポートに関するお問い合わせ・お申込みはこちら
https://www.marketresearch.co.jp/contacts/

■調査会社Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）について
https://www.marketresearch.co.jp/Transparency-Market-Research/
株式会社マーケットリサーチセンターはTransparency Market Researchの日本での正規販売代理店です。

■株式会社マーケットリサーチセンターについて
https://www.marketresearch.co.jp/
主な事業内容：市場調査レポート販売、市場調査サービス提供
本社住所：〒105－0004 東京都港区新橋1－18－21
TEL：03－6161－6097 FAX：03－6869－4797
マーケティング担当 marketing@marketresearch.co.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com